

講義名	日本語B (聞く)【留学生科目】			授業形態	
担当教員	石橋 明子	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生
				ナンバリング・コード	

主題と概要

大学生活で求められる日本語力を、タスクを通じて総合的に学ぶ。
授業に必要なスキルから、先生とのやり取りやサークル活動、スピーチ、討論などのスキル等、大学のさまざまな場面に対応できる日本語力を身につける。

到達目標

大学の授業に必要なスキルを身につけ、日本語力を向上させる。

提出課題

予習、復習、ワークシート等、授業中にその都度指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

全体としての講評・解説等も行い、フィードバックをする。

評価の基準

期末試験（30％）、中間試験（10％）、小テスト（10％）、課題の提出（20％）、授業参加度（30％）等による総合評価を行う。

履修にあたっての注意・助言他

出欠は毎回とる。
全授業回数の1/3以上欠席した場合は、試験を受けることができない。
遅刻3回で1回欠席とする。
15分以上の遅刻は欠席となる。
真面目かつ積極的な授業参加を望む。

教科書

.使用しない。

参考図書

.大学で学ぶためのアカデミックジャパニーズ：中上級者用日本語テキスト。	佐々木理枝、村澤慶昭、細井和代、藤尾晋代子	スリーエーネットワー	2750	4789010783
.全科目攻略！JLPT日本語能力試験ベスト総合問題集N1	五十嵐書子、佐藤茉莉花、金澤書子、杉山興、植村有里沙	ジャパンタイムズ出版	1980	4789010783

その他

必要に応じてプリント資料を配布する。

授業計画

- 第1回：イントロダクション 授業の進め方および注意事項、スケジュール、教材、評価方法等
- 第2回：講義・歴史を読み解く(上)、他
- 第3回：講義・歴史を読み解く(下)、他
- 第4回：情報の読み取り、他
- 第5回：講義・運送子と生命倫理(上)、他
- 第6回：講義・運送子と生命倫理(下)、他
- 第7回：大学祭とサークル活動、他
- 第8回：中間試験の実施およびその解説
- 第9回：聴解問題
- 第10回：トラブルへの対処と生活情報、他
- 第11回：プライベートなコミュニケーション、他
- 第12回：スピーチ、他
- 第13回：討論、他
- 第14回：公開討論(1)準備、他
- 第15回：公開討論(2)実践、他

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	○	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各プリントに関して、語句の読みや意味調べ、内容理解等の予習を、毎回120分行ってください。
発音・聴解の復習および課題を、毎回120分行ってください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力
本学は次の5項目の下に示される資質・能力を身につけた人材を育成することを目標とし、本学の学生は、卒業時にこれらの資質・能力を共通して身につけていることを求められます。

- (1) 「ネアカ」のびのび「へこたれず」の精神をもった人材
 - (2) 知識を知識に転換することができる、論理的思考力を持った人材
 - (3) 創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材
 - (4) 自主・自立の精神を持った人材
 - (5) 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材
- 上記に加え、本学の学生は「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」となるため、次のような基礎能力を確実に身につけておくことを求められます。
- (1) 新聞が読め、理解できる
 - (2) パソコンの基本的な操作ができる
 - (3) 人と円滑なコミュニケーションをとることができる
 - (4) 必要な日本語能力を身につけ、活用することができる（留学生）

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考